

五代格 ごだいかく 詩人、小説家。大正二年海岡縣入留米生れ、昭和五十八年歿（一九四一—八三）。本名關須眞夫。昭和七年東京都立第一商業高等学校在學中、友人と同人誌『オメガ』を發刊。十一年井上靖、有馬頼義 ありまのりよし 等の雑誌『文學生活』同人となり小説、戯曲を發表、また高村光太郎、大江滿雄を訪問、執筆する。十六年自聖書活字雜誌『國語と國文學』の編輯に携はり、原稿依頼で山岸外史、次 ついで に大宰治を知る。二十二年熱海山中で愛人と心中を圖ると未遂。大宰の玉川上水入水の折には、山岸と共に雨中遺體探索に加はる。翌年末常吉郎の裁らひで『週刊家庭朝日』の毎週童話と執筆。二十五年末常の懇意で日本放送出版協會に入社し、『週刊NHKラジオ新聞』編輯に従事。その後、詩集『都会・ナマケモノガウタウトキ』（昭和四十二二年刊）、『真介・夢みる乞食』（昭和四十九年刊）、SF小説『ウロボロスの骨』（昭和五十年刊）を出版した。他、多くの未發表詩集、小説を遺したといふ。

遺稿詩集『鎮魂歌』（関敦子編、平成四年一月十五日詩人会議出版）刊。

